

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立入間向陽高等学校)

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	1 授業改善及び学習習慣の確立を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた主権者意識の育成及び自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人に即した進路選択とその実現 4 保護者参加と中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて 評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	15名
	生徒名	30名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 2 2 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	
1	<p>・生徒達の授業態度は大変落ち着いており、大部分の生徒が集中して取り組んでいる。生徒達は、わかりやすい授業と共に興味を強く引く授業を望んでおり、教職員には、これらの現状や要望を踏まえ、生徒が意欲的・主体的に参加できる授業作りと授業改善の工夫が望まれる。また、大学進学をはじめとする生徒の多様な進路希望を念頭に置き、それらの土台となる基礎的な知識や思考力を養成していくことが必要である。</p> <p>・定期考査前の学習には、大半の生徒がよく取り組んでいるが、予習復習等の日常的な学習習慣が身につけていない生徒も少なくない。現状を踏まえ、教職員は、引き続き生徒の学習習慣確立のための方策を模索し、実行していく必要がある。</p> <p>・生徒の進路意識は、高まりつつある。特に、進路に関する科目選択については、将来の進路希望と結び付けながら、学習意欲の向上につなげていくことが大切である。</p>	<p>基礎的・基本的事項を重視した授業改善の取り組み</p>	<p>・生徒アンケートの結果を踏まえ、より一層興味関心を引き出す授業を創意工夫し実践していく。また、生徒達が自ら考え、意欲的に参加できる授業を模索していく。</p> <p>・引き続き「初期学習指導」を実施すると共に、授業における課題の提示と評価、生徒自身による定期考査の振り返り等を行い、教職員のコンセンサスを作りながら、学校全体で生徒達の日常的な家庭学習の習慣化を促していく。</p> <p>・科目選択に関して生徒達が自らの将来の進路と結び付けられるような情報提供と指導を行い、進路指導部ともタイアップしながら生徒の学習意欲向上につなげていく。</p>	<p>・生徒アンケートの分析によって生徒達の要望を把握し、職員間の情報交換と共通理解を深めながら、授業改善への課題を明確にして、様々な創意工夫と実践に取り組むことができたか。</p> <p>・「初期学習指導」により、学習への動機付けができたか。また、生徒全員に対して、課題や定期考査等の評価と生徒自身による学習の振り返りにより、日常的な家庭学習の習慣化を進めることができたか。</p> <p>・科目選択にあたり、生徒達が自分の将来の進路を自覚しながら学習へのモチベーションを上げていけるような適切な情報提供と指導を行うことができたか。</p>	<p>・生徒アンケートの結果、半数以上の生徒が「授業に集中している」と回答し、教職員の授業改善の工夫と努力は実を結びつつあるが、まだ家庭学習の習慣が身につけていない生徒もおり、その定着を図るべく努力が続けられている。</p> <p>・「初期学習指導」を実施して学習への動機づけを行うとともに、「小論文講座」、シートによる学習の振り返り等を実施した。</p> <p>・科目選択ガイダンスによる情報提供により、自分の進路を意識しながら学習に取り組んでおり、進路と学習意欲を連動させることができた。</p>	<p>B</p> <p>・生徒アンケートで生徒達の意識・実態を把握し、生徒の主体的な授業参加と学習習慣の確立に向けた一層の授業改善の努力が望まれる。具体的には、生徒参加型の授業を模索しながら、自らの課題を発見していけるような学習の振り返りなど、進路実現する上での知識と学力を養成していくことが重要な課題である。</p> <p>・「初期学習指導」は、年間を通して、また学年を追って発展的に実施されることが望ましい。生徒の学習習慣確立のためには、地道で継続的な取り組みが必要である。そのためには、生徒の自己評価の視点を入れながら、「授業は教員・生徒相互の努力で進められるもの」という意識をもたせていく必要がある。</p> <p>・引き続き進路指導部とタイアップしながら、進路意識と学習意欲を結び付け連動させた指導を模索していくことが必要である。</p>
2	<p>・挨拶・礼儀など基本的生活習慣が身につけている生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っており、近隣からの評判も良い。</p> <p>・SNSの使用について、研修会等を実施することで問題の拡大を防止できているが、携帯電話使用のマナーを含め、引き続き理解を深め、トラブル防止に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・全校生徒が積極的にかかわる「参加型の行事づくり」は、全校生徒に浸透している。生徒アンケートでも「向陽高校の一番の魅力」について「行事が盛り上がる」が第1位となり、生徒の行事への期待が顕著になっている。行事をさらに発展させ、よりよいものにしていくために、全校生徒が「全校生徒参加型」の意味を深め、「参加」から「参画」へと発展させていく工夫を継続していく必要がある。</p> <p>・今年度より食堂業者が変更となった。食堂と生徒間で話し合いをする場を適宜設け、生活環境を向上させる活動を継続していきたい。また、身近な学校の生活環境の向上につながる議論を活発に行う中で、主権者意識を継続して育成し必要がある。</p> <p>・部活動が盛んで8割以上の生徒が3年間部活動を継続している。</p>	<p>生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長を図る。</p>	<p>・教員間の共通理解と協力体制の確立(特に整容指導・挨拶励行、時間厳守について)</p> <p>・朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続</p> <p>・定期的な整容指導の実施</p> <p>・社会生活におけるマナー向上の指導の一つとして情報モラル研修会を企画する。</p> <p>・生徒会部と担当が連携し、生徒会本部・各委員会が論議を深める等、HRを中心とした組織的な運営を推進していく。また、各HRが行事を作っている意識を持つことができるように、行事等の企画・提案を工夫させる。</p> <p>・アンケートや生徒総会での意見を踏まえて、生徒会として関係部署と協議できる機会の推進。</p> <p>・意欲、向上心を高める部活動の推進と、そのための環境整備の推進。</p>	<p>・共通理解と協力体制ができたか。</p> <p>・登校指導、巡回指導が継続的に実施できたか。</p> <p>・教員の共通理解のもと、生徒の整容指導への理解を広めることができたか。</p> <p>・効果的に研修会が実施できたか。</p> <p>・生徒会活動が全校生徒の「参画」を視野に入れて、原案作成・提案・実施を組織的に運営できたか。</p> <p>・アンケート項目を工夫し、その結果から、生活環境向上の可能性を多角的に検討し、協議できたか。</p> <p>・部活動加入率の維持向上ができたか。</p>	<p>・生徒の情報共有するようにつとめ、生徒指導部・担任の連携を強化した。</p> <p>・日々の校門指導、授業開始時の巡回指導は今年度も全教員の協力を得て継続することができた。</p> <p>・学期当初、学年の教員により整容指導が行えた。</p> <p>・年度当初に全校に対してSNSの研修会を実施した。「向陽高校をよくする会」の意見交換でも生徒会へ携帯の方針について検討を投げかけ、マナーを守るように指導した。</p> <p>・全校生徒が企画の段階から行事に携われる活動を目指し、諸行事等での原案づくり、諸会議の運営、リハーサル運営など生徒会本部を中心に実行した。諸会議において、学年に応じて、説明を変える等、各学年が行事に参加しやすい工夫をした。</p> <p>・学食アンケートの結果や要望を伝え、学食との協議を重ねた。生徒の生活環境がよくなるよう、美化委員会と連携し、トイレの使い方についてポスターを掲示する等した。</p> <p>・昨年に引き続き、全校を挙げての部活動加入率向上を目指す意識を確立した。部活動に加入しやすいよう、部活動登録期間の運営を工夫した。</p>	<p>A</p> <p>・落ち着いた教育環境を維持するため全教員の協力体制を維持していくことが重要である。</p> <p>・挨拶の励行等、マナー向上を図る指導を継続させていくことが重要である。</p> <p>・SNS関連の問題は、あらゆる場面で引き続き指導していく必要がある。マナーについては、自助努力が欠かせない。マナーについて意識を高める努力が必要であり、生徒会としてもポスターを貼るなど啓発に努めているが、こうした努力が引き続き必要である。</p> <p>・校則は、管理するためのためではなく、納得できるか大切なことであり、校則を考えることで自己の価値観を育んでいくことに繋げてほしい。</p> <p>・学食との協議をより意義あるものにしていくために、引き続き改善を重ねていき、学食と生徒の橋渡しとなるよう、生徒にフィードバックし、周知していきたい。</p> <p>・部活動の条件整備の要望に応えられるように、部活動予算を配慮して、生徒会予算でまかなえない部分も、引き続き、PTAに協力を求めたい。</p>
3	<p>・生徒の進路希望は多様である。計画的に進路決定することができるように、進路指導の工夫が必要である。</p> <p>・希望する進路を実現するためには受験に耐えうる教養と学力が不可欠である。また受験環境も変化しており、生徒の実状に応じた対策が必要である。</p> <p>・スマートフォンの普及により進路情報は身近になったが、不適切な情報も多い。適切な情報を生徒・保護者・教職員で共有していく必要がある。</p>	<p>生徒一人一人を大切にし、その進路実現を支援する。</p>	<p>・適性検査・職業人講話を通して自己理解と職業意識を育む。また各ガイダンスや進路見学会を通して計画的に進路分野を選択させる。</p> <p>・授業を基本とし、補講や模試を実施して学力の向上を図る。自習室は記名方法を簡略化し利用のハードルを下げる。推薦受験対策として、小論文や面接練習に積極的に取り組むように指導する。</p> <p>・「進路だより」や「ホームページ」、「保護者向けの進路ガイダンス」を通して進路情報を発信していく。また、進路室の利用を促進する。</p> <p>・本部役員・各委員会委員長と担当教員との連絡・協議を密にする。これにより、生徒理解を深めた、学校の実情に基づく取組ができるよう本部・各委員会の計画立案とその実行に関わっていく。</p> <p>・生徒を成長させることを中心に意見交換を行うと共に学校と保護者、地域の信頼と協力関係を深める運営を行う。</p> <p>・事前に協議内容について論点整理を行い、進行が円滑に行えるよう取り組む。</p> <p>・意見交換の内容について生徒会ニュース、PTA 広報、職員会議等で還元する。</p> <p>・中学校、中学生、その保護者へ理解と信頼を深める学校説明会、中学校訪問、地域交流の企画・実施。</p>	<p>・生徒が自分の将来について考え、職業・上級学校についての必要な知識を深めることができたか。</p> <p>・生徒が自主的・主体的に学習に取り組み、受験に必要な学力を身につけるように指導することができたか。</p> <p>・適切な進路情報を生徒・保護者・教職員と共有することができたか。</p> <p>・本部委員と担当教員とが、諸行事について連絡を取り合い、計画から運営まで概ね順調に行うことができた。体育祭・マラソン大会での給水活動、正門前の花植えなどの取り組みは好評であった。挨拶運動も保護者が来校するよい機会となっている。また挨拶運動により多くの生徒と顔合わせられる。</p> <p>・生徒要望アンケートの結果に基づいて意見交換を行い、授業、進路、生徒指導、行事、施設設備等の学校の現状について共通理解を深めることができた。今回、事前にHR討議を行いHR代表者からも発言を受け、協議を広げることができた。事前にそれぞれの論点整理を行い意見交換を焦点化することができた。内容も生徒総会、PTA広報、職員会議等で報告され、丁寧に還元されている。</p> <p>・学校説明会を4回、中学校訪問を主に2回、進学フェア(7月、10月)への参加、入間市教育委員会が企画する上級学校研究(2月)への対応を行った。</p>	<p>A</p> <p>・今年の進路見学会は公共交通機関を利用して実施した。バスでの見学会に比べてより自主的な活動であった。生徒の意識も高良良かったが、引率面での課題が指摘された。今後検討調整が必要である。</p> <p>・自習室をより学習しやすい環境に整えていく必要がある。新入試制度に備えて、1年生は3学期に説明会を予定しているが、今後も必要な対応をしていきたい。</p> <p>・出願方法の複雑な学校がある。注意して対応していきたい。進路室は受験報告書を閲覧に来る生徒が多かったようだ。さらに生徒の利用を促すような部屋作りをしていきたい。</p>	
4	<p>・PTA・後援会が中心となり、体育祭やマラソン大会の給水支援、正門前の花植えなど生徒の活動に直接関わる活動を行い、生徒理解を深める活動が引き続き求められている。また、PTA・後援会として生徒会活動・部活動等を支援する活動を行っていただき、本校の教育活動が大きく支えられている。この活動を役員以外の方へ広げていくことが課題である。</p> <p>・入間向陽高校をよくする会(学校評価懇話会)での教員、生徒、保護者、地域の意見交換は、生徒の成長を励ます教育的な場として機能している。またHR代表も構成メンバーに加え、HRを基盤とした運営に改善している。意見交換によって意識を深めた生徒が、学校の生活環境を改善するための取り組みを進展させ、生徒の主権者意識を育てることに発展させることが必要である。</p> <p>・学校説明会(4回)、中学校訪問、豊岡小学校との交流など教育活動への理解と信頼を深める中学校や地域との交流、連携の取組が定着している。</p>	<p>保護者参加に基づく地域に開かれた学校づくりの推進</p>	<p>・本部役員・各委員会委員長と担当教員との連絡・協議を密にする。これにより、生徒理解を深めた、学校の実情に基づく取組ができるよう本部・各委員会の計画立案とその実行に関わっていく。</p> <p>・生徒を成長させることを中心に意見交換を行うと共に学校と保護者、地域の信頼と協力関係を深める運営を行う。</p> <p>・事前に協議内容について論点整理を行い、進行が円滑に行えるよう取り組む。</p> <p>・意見交換の内容について生徒会ニュース、PTA 広報、職員会議等で還元する。</p> <p>・中学校、中学生、その保護者へ理解と信頼を深める学校説明会、中学校訪問、地域交流の企画・実施。</p>	<p>・本部委員と担当教員とが、諸行事について連絡を取り合い、計画から運営まで概ね順調に行うことができた。体育祭・マラソン大会での給水活動、正門前の花植えなどの取り組みは好評であった。挨拶運動も保護者が来校するよい機会となっている。また挨拶運動により多くの生徒と顔合わせられる。</p> <p>・生徒要望アンケートの結果に基づいて意見交換を行い、授業、進路、生徒指導、行事、施設設備等の学校の現状について共通理解を深めることができた。今回、事前にHR討議を行いHR代表者からも発言を受け、協議を広げることができた。事前にそれぞれの論点整理を行い意見交換を焦点化することができた。内容も生徒総会、PTA広報、職員会議等で報告され、丁寧に還元されている。</p> <p>・学校説明会を4回、中学校訪問を主に2回、進学フェア(7月、10月)への参加、入間市教育委員会が企画する上級学校研究(2月)への対応を行った。</p>	<p>A</p> <p>・給水活動や花植え、挨拶運動は恒例の活動となっている。これらを通じて保護者の来校機会が増えたこと、生徒たちと顔を合わせる機会を多く持てたことは大変有意義なことであり、今後も継続していきたい。</p> <p>・生徒アンケートの分析に基づき意見交換を続けることで学校の現状と変化を考慮することができている。今回実施したHR討議を充実させ、意見交換を広げていく工夫が必要である。引き続き、生徒会を中心とした準備を丁寧に行い、生徒の主権者意識を高める場として機能できるように発展させていく。</p> <p>・学校説明会、上級学校研究会には、本校生の姿を見ていただけるように企画し、そのことが本校の教育活動の実際の様子を伝えることになり、中学生と保護者から好評であった。入間向陽高校の教育活動への理解と信頼を広げるために引き続きたい取り組みが必要である。</p>	

学 校 関 係 者 評 価
実施日 平成31年 1月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>・生徒のアンケート等を参考に教員が生徒と関係をつくり、授業改善に取り組むことが大切であり、引き続き取り組んで欲しい。</p> <p>・生徒の意見表明で宿題は授業の最低限の準備であって自分のためになるという意見が出てきたのは嬉しい発言である。強制力のある宿題に多くの人が取り組むことは、授業に興味を持ち、学習の習慣をつける上で大切なこととなる。</p> <p>・学習の振り返りを行うことで、自分の立ち位置をつかむことは大切なことであり、自らの課題を発見していけるような学習の振り返りについて引き続き取り組むことが必要である。</p> <p>・自分の将来や進路を意識しながら学習意欲を向上させ、知識と学力をつけていくことが引き続き課題となる。</p>
<p>・交通マナー、公共の場のマナーが指摘されるということだが、向陽生は概ね落ち着いていて服装も態度も悪くない。</p> <p>・SNS関連の問題は、引き続きいた課題となっている。マナーについては、自助努力が欠かせない。マナーについて意識を高める努力が必要であり、生徒会としてもポスターを貼るなど啓発に努めているが、こうした努力が引き続き必要である。</p> <p>・校則は、管理するためのためではなく、納得できるか大切なことであり、校則を考えることで自己の価値観を育んでいくことに繋げてほしい。</p> <p>・全校生徒参加型の生徒会行事のテーマが毎年進化していることがわかり、すばらしい。学習意欲の向上にも繋がるのではないかと思う。</p> <p>・卒業生のメッセージの中で横の繋がりを大切にして行事を創ること、全校生徒が生徒会であること等改めて刺激を感じた。後輩にメッセージを送り、母校に貢献しようとする卒業生が存在することは、学校の繋がりとす素晴らしい。</p> <p>・学食との話し合いは、メニューに係る材料費・人件費・燃料費・施設管理費までも含むことを折衝していかなければならないので深い社会勉強となる。引き続き取り組んで欲しい課題である。</p> <p>・進路見学会や職業人講話は、様々な職業分野についての話を聞くことで進路選択の動機付けになり、引き続き取り組んで欲しい。公共交通機関を利用した見学会は、準備も自分たちですることが多く、よい経験となった。</p> <p>・進路決定について不安もあるかもしれないが、積極的に自ら調べて自己決定していくことが必要である。</p> <p>・自習室の利用者が増加していることは、好ましい。</p>
<p>・PTA、後援会活動に直接かかわることで生徒が成長していく姿を直に見ることができ、有意義であった。また、恒例となっているPTA活動は好評であった。</p> <p>・入間向陽高校をよくする会の意見交換の指摘によって生徒会が各クラスより理解を深めた企画を工夫し、質の向上や、団結を深める活動へ発展させる契機となっている。また、卒業生との交流も生徒会活動を深める機会となっている。こうした卒業生とのかかわりが続く学校は、素晴らしい。是非、引き続きで欲しい。</p> <p>・この会での意見交換に参加してさらに重点目標に向かって一生懸命取り組んで本当に効果が出ていることを実感できる。次回は、学校自己評価シートに現れていない意見も発言できるようにすることを期待する。</p>